



夙川学院短期大学 2017年度（後期） 通学課程・**保育士資格**取得特例制度募集要項

認定子ども園法改正に伴う幼稚園教諭免許状および保育士資格取得の特例制度について

認定子ども園法改正に伴い創設された新たな「幼保連携型認定子ども園」の職員である「保育教諭」については、「幼稚園教諭免許状」と「保育士資格」の両方の免許・資格を有することが原則となります。

認定子ども園法改正に伴い、施行後5年間の経過措置期間に、保育所または幼稚園における勤務経験（3年以上かつ4320時間以上）を有することにより、もう一方の免許・資格取得に必要な単位数等を軽減する特例制度が設けられました。

本特例制度に対応する幼稚園教諭保持者の保育士資格取得のために、科目を制度で定められた最低単位数である4科目（8単位）を開講します。

※本特例制度についての詳細は、厚生労働省のホームページ等で、必ずご自身でご確認ください。

<受講について>

1. 受講資格

幼稚園教諭普通免許状を所有し、実務経験3年以上かつ実労働時間合計4320時間以上を有する方

【注意】

申し込み時に、幼稚園教諭普通免許状の写しを提出していただきます。

実務経験（3年以上かつ4320時間以上）の充足については、受講申し込み時に証明書を提出する必要はありませんが、ご自身で勤務施設に必ず確認のうえ、お申し込みください。※本学では、実務経験に関するお問い合わせにはお答えできません。

2. 募集定員 30名（最小催行人数 10名）

3. 受講申し込み

本学ホームページより申し込み ※インターネット環境がない場合は裏面の連絡先までお問い合わせください。

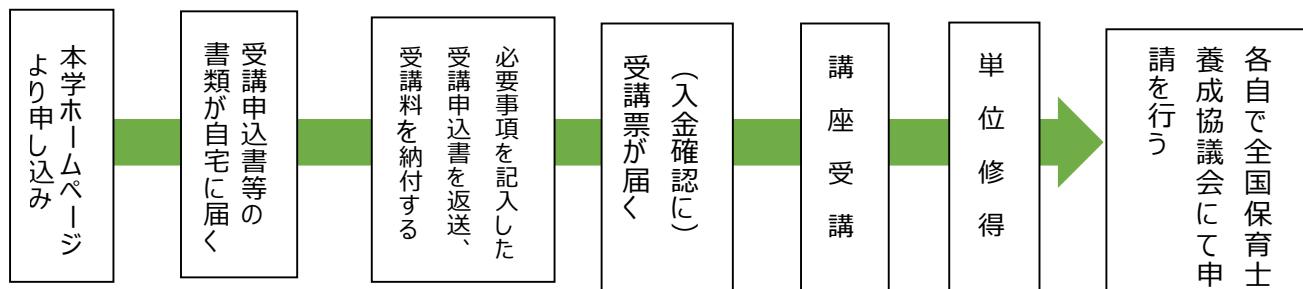
4. 申込期間（定員なり次第締め切らせていただきます。）

【後期】7月10日(月)～7月31日(月)

5. 受講可否連絡同封書類

申し込み書類名		記入方法
1	受講申込書	ペンまたはボールペンで記入してください 写真3cm×4cm（裏面に氏名記入）を1枚用意し受講申込書へ貼付してください。
2	幼稚園免許状の写し	免許状に記載の氏名と現在の氏名が異なる方は、戸籍抄本も一緒に提出してください。

<特例制度を利用した免許・資格取得の概要>



7/10 受付開始
7/31 締切

8月上旬頃発送

8/18 締切

8/22 発送

9月から1月まで ※合格した場合
週1回（指定日）
の通学

申込者が10名に満たない場合は未開講の旨の通知をお送りします。

<開講科目>

本学で開講する特例制度の指定科目は下記の通りです。特例制度で定められている4科目8単位の開講です。

試験免除科目	養成施設における科目	本学開講科目名	単位数 講義回数	開講日程
社会福祉	社会福祉	福祉と養護 (山川宏和)	2 (15回)	9/2、9/9、9/17、9/23 (3.4限) 9/30、10/7、(1.2限) 10/15 (1.2.3限)
社会的養護	社会的養護			
児童家庭福祉	児童家庭福祉			
	家庭支援論	相談支援 (高田さやか) (井手進一郎)	2 (15回)	9/2、9/9、9/17、9/23 (1.2限) 10/7 (3.4限)、10/15(4限) 10/28 (1.2限) 12/2 (3.4限)
保育原理	保育相談支援			
	乳児保育			
子どもの保健	子どもの保健 1	保健と食と栄養 (才木和子) (廣田有加里)	2 (15回)	10/28 (3限) 11/18、11/25、12/2、12/9、 12/16、1/14、1/20 (1.2限)
子どもの食と栄養	子どもの食と栄養			

授業開始時間

1限目 9:20~10:50 2限目 11:00~12:30 昼休み 12:30~13:20
3限目 13:20~14:50 4限目 15:00~16:30

<受講料>

項目	金額 (円)
受講料 (1科目)	19,000円

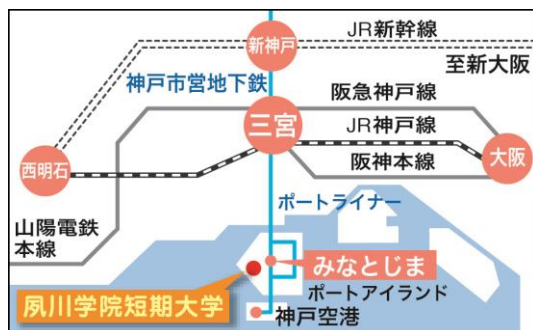
全科目受講の場合は76,000円となります。

テキストが必要な科目があります。その際は1科目 1,000円~3,000円くらいが別途必要となります。

必要書類送付時にお知らせさせていただきます。

<資格の申請について>

全国保育士養成協会にて各自で申請を行ってください。



〒650-0045

兵庫県神戸市中央区港島1丁目3番11

担当：幼保特例講座 担当

TEL: (078) 940-1154 (代表)

e-mail: c-gakumu@shukugawa.ac.jp

Web 申し込み: <http://www.shukugawa.ac.jp>

JR「三ノ宮」駅、阪急・阪神「神戸三宮」駅、
神戸市営地下鉄「三宮」からポータルライナー約9分
「みなとじま (キャンパス前)」駅下車、徒歩約10分

科 目 名 : 福祉と養護
単 位 (授 業 形 態) : 2 単 位 (講 義)
担 当 者 : 山川宏和

授業の到達目標

保育士は、児童福祉法に規定された福祉専門職であり、近年は、児童虐待、障がい児保育、健全育成など、地域の子育て支援、家庭支援に取り組むことがより強く期待されている。我が国の児童を取り巻く問題を、貧困、障がい、児童虐待、社会的養護等の福祉分野から学び、今後期待される保育士の働きを理解することを学習の目的としている。社会福祉の諸制度（公的扶助、高齢者福祉、障がい者福祉）の理解、児童福祉制度（児童福祉六法、児童相談所、児童虐待）の理解、社会的養護（施設養護、家庭的養護、障がい児）の理解児童福祉の対象、児童福祉の制度とサービス、関連領域との連携について理解する。

授業の概要

1. レジюме・参考資料を基に、各回のテーマについて講義を行う。
2. 必要に応じてDVDなどの映像素材を使用する。

全体の授業計画・内容

1. オリエンテーション・生活保護とは何か
2. 生活保護の仕組み
3. 老人福祉制度の仕組み
4. 障がい者福祉制度の仕組み
5. 子どもの権利条約について
6. 児童福祉法について
7. 児童相談所について
8. 児童虐待について
9. 諸外国の少子化対策
10. ひとり親施策について
11. 里親制度について
12. 養子縁組制度と児童福祉施設について
13. 児童福祉施設と少年非行について
14. 障がい児施設について
15. 自立支援について

学習の方法

予習のあり方：児童福祉、社会福祉、社会的養護とは実践の科学であり、新聞やニュースに日常的に触れることにより、身の周りの児童問題に関心を持つことが予習となる。

学習のあり方：家庭や現場等における経験で、耳にしたことがあっても、正確には知らないということもある。正しい知識やねらいを知り、現場で経験として活かせるように受講を期待する。

復習のあり方：レジюме等の資料を熟読すること。

成績評価

中間と期末に2度試験を行う（100%）。すべて出席するのが原則です。

テキスト

レジюме及び参考資料を適宜配布する。

参考文献

授業中に随時紹介する。

科 目 名	: 相談支援
単位 (授業形態)	: 2単位 (講義)
担 当 者	: 高田 さやか・井手 進一郎

授業の目標

本特例履修科目は、「家庭支援論」「保育相談支援」の2つの科目の目標・内容をもとに、幼稚園教諭免許を有する者が幼稚園等での勤務経験により、保護者対応等の経験を一定程度積んでいることを考慮し、「家庭支援・保育相談支援の意義と役割」及び「多様な支援と関係機関との連携」のほか幼稚園等での勤務経験では得られない内容等を中心とする。

全体の授業計画・内容

1. 家庭支援の意義と役割
 - (1) 家庭の意義と機能及び家庭支援の必要性
 - (2) 保育士等が行う家庭支援の原理
 - (3) 子育て家庭の福祉を図るための社会資源
2. 多様な支援の展開と関係機関との連携
 - (1) 子育て支援サービスの概要
 - (2) 保育所入所児童の家庭への支援
 - (3) 地域の子育て家庭・要保護児童及びその家庭に対する支援
 - (4) 子育て支援における関係機関との連携
3. 保育相談支援の意義
 - (1) 保護者に対する保育相談支援の意義
 - (2) 保育の特性と保育士の専門性を生かした支援
4. 保育相談支援の基本
 - (1) 保護者の養育力の向上に資する支援
 - (2) 信頼関係を基本とした受容的かかわり、自己決定、秘密保持の尊重
5. 保育相談支援の実際
 - (1) 保育に関する保護者に対する指導及び支援の内容
 - (2) 保護者支援の方法と技術
 - (3) 保護者支援の計画、記録、評価、カンファレンス
6. 児童福祉施設における保育相談支援
 - (1) 保育所における保育相談支援及び特別な対応を要する家庭支援の実際
 - (2) 児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援
 - (3) 障害児施設、母子生活支援施設等における保育相談支援

成績評価

平常試験 90%、提出物・課題 10%から総合的に評価する。

テキスト

授業内で資料を配布します。

参考文献

授業内でお知らせします。

科 目 名 : 乳児保育
単位 (授業形態) : 2 単位 (演習)
担 当 者 : 折戸 昭美

テーマ及び授業の目標

○乳児保育の理念と歴史的変遷及び役割等について学び、保育所、乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解する。○3歳未満児の発育・発達について学び、健やかな成長を支える3歳未満児の生活と遊びについて理解する。○乳児保育の計画を作成し、保育の内容や方法、環境構成や観察・記録等について学ぶ。○乳児保育における保護者や関係機関との連携について学ぶ。

授業の概要

0・1・2歳児の発達過程についての理解を深め、健やかな成長を支える生活と遊びについて学ぶとともに、絵本の紹介や手遊び、ふれあい遊び等を取り入れ、乳児保育における専門的知識や技術を学ぶことで、保育所や乳児院での実践力に繋がるように取り組んでいく。

全体の授業計画・内容

1. 保育所保育指針と「乳児」の定義
2. 乳児保育の理念と歴史的変遷
3. 乳児保育の意義と役割
4. 乳児保育の現状と課題 (保育所・乳児院・家庭的保育等)
5. 乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援
6. 乳児保育における基本的な知識・技術に基づく援助や関わり
7. おおむね6か月未満の発達と保育内容
8. おおむね6か月から1歳3か月未満の発達と保育内容
9. おおむね1歳3か月から2歳未満の発達と保育内容
10. おおむね2歳の発達と保育内容
11. 手作り玩具の制作
12. 保育課程に基づく指導計画の作成と観察・記録及び自己評価
13. 個々の発達を促す生活と遊びの環境
14. 職員間の連携
15. 乳児保育における連携 (保護者・関係機関等)

学習の方法

予習のあり方：授業で発表する教材 (手作り玩具・手遊び、ふれあい遊び等) を研究する。

学習のあり方：配布資料やノートに授業の内容を整理して記入する。教材研究の成果を発表する。

復習のあり方：資料、作品の整理ファイル・グループワーク等

成績評価

小テスト (60%) 提出物 (レポート) (20%) 手作り玩具の制作及びグループ発表 (20%)

テキスト

新時代の保育双書 乳児保育

保育所保育指針解説書

参考文献

科 目 名 : 保健と食と栄養(保健領域)

単 位 (授 業 形 態) : 2 単 位 (講 義)

担 当 者 : 才 木 和 子

授業の到達目標

子どもたちの生涯発達の中で、各ライフステージにおける特徴及び子どもの育ちのあり方を理解することを目標とする。

授業の概要

子どもたちの心身の健康と保健について、現在の発達課題を踏まえながら学び、子どもたちの望ましい心身発達のあり方、感染症などを始めとした保健に関する基礎知識、現状の子育て支援施策のあり方との関連などについての理解を深めることを目指す。

全体の授業計画・内容

1. 子どもの健康と保健の意義-人口動態の変遷
2. 子どもの身体発育及び生理機能の発育
3. 子どもの主な疾病に関する基礎知識(先天性疾患)
4. 子どもの主な疾病に関する基礎知識(感染症①)
5. 子どもの主な疾病に関する基礎知識(感染症②)
6. 子どもの精神保健に関する基礎知識(発達障害)
7. 子どもの精神保健に関する基礎知識(児童虐待)

準備学習の内容

- ・子どもに関わる社会施策に関して近年変更されたものに関する最新統計を学習する。
- ・生理機能の発育発達のあり方を学習する。
- ・代表的な疾病とその在り方、また感染症の成立要因とその対策に関して学習する。
- ・子どもの精神機能のあり方がどのように成長過程の中で変化をし、機能不全に陥る際の変化のポイントを学習する。

成績評価

小テスト3回、授業態度、

テキスト

山崎知克編著 子どもの保健 I-心身の発達・健康と安全- 建帛社

参考文献

科目名：保健と食と栄養（栄養領域）

単位（授業形態）：2単位（講義）

担当者：廣田 有加里

授業の到達目標

子どもたちが生涯にわたり健全な生活活動を営むために、保育者として必要な子どもの食と栄養についての基礎知識とスキルを身につけることが目標である。

授業の概要

現在の食生活の現状と課題について学び、望ましい食生活のあり方や栄養に関する基礎知識、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深め、食育実践の基礎づくりを目指す。

全体の授業計画・内容

- 第1回 日本における小児の食生活の事態と身体発育と栄養状態の把握
- 第2回 小児の食べる機能・消化吸収機能発達と栄養
- 第3回 栄養に関する基礎知識（炭水化物、脂質）
- 第4回 栄養に関する基礎知識（たんぱく質）、ビタミン）
- 第5回 栄養に関する基礎知識（ミネラル、水分）、小テスト
- 第6回 離乳の意義と実践
- 第7回 食物アレルギーのある子どもへの対応
- 第8回 食育、小テスト

準備学習の内容

- ・栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能について学習する。
- ・各種食品に含まれる栄養素とその特徴について理解し、健康づくりのための望ましい食べ方を理解する。
- ・授乳・離乳の支援ガイドを参考に、離乳期の栄養について学習する。
- ・食物アレルギーの子どもへの対応について学習する。
- ・食育がなぜ必要なのか理解し、食育の実践方法について学習する。

成績評価

小テスト2回（70%）、提出物（15%）、授業態度（15%）

テキスト

上田玲子 編著 新版『子どもの食生活』 ななみ書房